

## 平成30年度 日本史Bシラバス

教科	地理歴史	科目	日本史B	履修学年	2 学年	単位数	4 単位
使用教科書	山川出版社 詳説日本史B			資料集	帝国書院	図説日本史通覧	

### 教科目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

### 学習内容

1 「歴史の考察」では、資料を活用して歴史の基本的な考察方法を理解させると共に、各時代で自ら主体的に主題を設定して歴史を追究する学習や地域社会にかかわる学習を通じて、多面的・多角的な歴史の見方・考え方を身に付ける。

2 「原始・古代の社会・文化と東アジア」では、旧石器時代から平安時代までの日本列島における社会・文化について、東アジア世界の動向と関連付けを踏まえて、原始社会の時期、国家の形成と律令体制の確立の時期、律令体制の変質の時期の3つの構成から理解する。

3 「中世の社会・文化と東アジア」では、武家政権の成立から戦国時代までの社会・文化における武士が政治力をつけていく過程について、武家政権の成立期と武家政権の成長期の構成の中、世界的視野と国内諸地域への視点を踏まえて考察する。

4 「近世の社会・文化と国際関係」では、織豊政権から江戸時代における社会・文化について、封建的支配体制が作り上げられる幕藩体制の確立、町人文化が生み出された幕藩体制の展開、列強の接近に伴う幕藩体制の動揺の3つの構成から世界史的な流れと関連させて考察する。

5 「近代日本の形成とアジア」では、ペリー来航から明治時代までの社会・文化について、開国・明治維新・自由民権運動を経て近代日本が形成されていく過程を、アジアにおける国際環境の変化や国際関係の推移に着目して考察する。

6 「両世界大戦期の日本と世界」では、第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる日本の歴史の展開について、国際社会における日本の立場と対外政策の変化を、近代国家として発展を遂げた日本が全体主義の台頭により戦争に突入していく点を踏まえて理解する。

7 「第二次世界大戦後の日本と世界」では、第二次世界大戦後の日本について、新憲法を制定し独立した占領下の日本、高度成長時代、1970年代以降の激動する世界と日本の3つの構成から、世界の動きと関連させて総合的に考察する。

### 学習方法

「資料をよむ」学習を冒頭に取り入れ、日本史学習への関心を高める。原始・古代から戦後までの学習については、地理・公民・特別活動との連携や国際環境との関連を重視する中、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を考察する。その際、「資料にふれる」や「主題を設定し追究する学習」を適宜取り入れる。また、余り細かな事象には深入りしないよう留意し、日本文化の学習については生活文化や民俗学の視点も踏まえ、その特色と形成過程を総合的に考察する。

学	時	学 習 内 容	月	評価の観点	評 価 基 準
---	---	---------	---	-------	---------

期	数		関	思	資	知		
学 期	1	1. 「資料をよむ」 長屋王の変を探る * 歴史の叙述が何を根拠に構成されているかを知る。	4	○	○		○教科書に載る文献資料や考古資料などを分析して、長屋王の変の叙述根拠を多面的に捉え、歴史の復元に迫ることができたか。	
	1	◎第1部 原始・古代 第1章 .日本文化のあけぼの ア文化のはじまり					○日本における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができたか。	
	1	* 人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。	○	○			○黒曜石などの考古資料を提示し、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察できたか。	
	1	* 打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気付く。			○	○		
	1	イ 農耕社会の成立 * 大陸からの道具の流入や稲作の伝播などを踏まえて弥生文化の形成を理解する。	○	○			○水稻耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を発掘された土器や農具から考察できたか。	
	1	* 集落・墓の変容からも見られるように富の蓄積が開始される中、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて理解する。			○	○	○小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、『魏志』倭人伝などの文献資料に基づき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察できたか。	
	1	ウ 古墳とヤマト政権 * 地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。	○		○		○前方後円墳をはじめとする古墳やそれに伴う石室の形状や大きさなどの変容からヤマト政権成立までの過程を考察できたか。	
	1	* ヤマト政権の統一に至る国家の形成過程について東アジア世界との関係、古墳時代の人々の生活の変容などを踏まえて考察する。			○		○中国及び朝鮮半島の情勢との関連、文字や仏教などの大陸文化の受容を踏まえ、ヤマト政権の成立がとらえることができたか。また、古墳文化の変化や生活の変化、大王を中心とする政治制度も踏まえ、ヤマト政権を総合的に理解できたか。	
	1	第2章 律令国家の形成 ア 飛鳥の朝廷 * ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、推古朝を中心とする飛鳥の朝廷の時代を理解する。				○	○	○台頭する蘇我氏と厩戸王を中心とする朝廷の対立や飛鳥文化の形成について、仏教や遣隋使・遣唐使など大陸との交流を踏まえて考察できたか。
	1	イ 律令国家の成立 * 律令国家が成立するまでの政治の動向と土地や人々への統治の整備				○		○大化の改新から平城京に至るまでの政治的経過を律令体制整備の視点から考察できたか。

	について理解する。					
2	* 律令体制完成までの都の建設と古代文化の発展過程について理解する。					○ 公地公民制について、税制や土地支配の関係を踏まえて把握し、藤原京と白鳳文化の形成まで考察できたか。
	ウ平城京の時代	5				
2	* 律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。				○	○ 平城京における大宝律令・養老律令による律令体制が整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなども踏まえて考察できたか。
2	* 平城京における政治の動きについて、民衆への土地政策も含めて考察する。					○ 政界における藤原氏の進出、墾田永年私財法による初期荘園の誕生などを踏まえて考察できたか。
	エ「資料にふれる」					
1	* 長屋王の変の起こった舞台や、それに関わる実際の資料に着目して平城京の地の実情を知る。				○	○ 平城京の遺構が残る跡地や長屋王邸宅跡からの遺物など実際の資料にふれ、長屋王の変の起こった時代を感じることができたか。
	オ天平文化					
1	* 天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。				○	○ 盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察できたか。
	カ平安朝廷の形成					
2	* 平安京前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や平安初期の政治改革、地方の変貌を踏まえ、律令体制の変質を理解する。				○	○ 蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察できたか。
1	* 東アジアとの関係を踏まえ、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。					○ 密教に着目して唐文化を消化し、密教芸術が生まれた弘仁・貞観文化の意義を理解できたか。
	第3章 貴族政治と国風文化					
	ア摂関政治					
2	* 藤原氏による摂関政治が地方における土地・人々との支配体制に及ぼした影響を理解させる。				○	○ 藤原北家の発展過程を理解し、公領の変質や荘園の拡大など律令体制の変容をとらえて、摂関政治を考察できたか。
	イ国風文化					
1	* 新しい貴族文化である藤原文化が、国風文化として大陸文化を消化した上に展開されていることを理解する。				○	○ 国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達に着目して、貴族の生活・文化を理解できたか。
	ウ荘園と武士					
2	* 荘園整理令や国司の土地支配の進展に伴い、寄進地系荘園など荘園・公領の動きに変化があったことを理解する。					○ 文献資料を活用し、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察する。

2	<p>* 地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとって考察する。 〔中間考査〕〔ノート提出〕</p> <p>◎第2部 中世 第4章.中世社会の成立 ア院政と平氏の台頭</p>	6		○ ○	○ 武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことができたか。
2	* 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・社会を考察する。		○	○	○ 延久の荘園整理令が出され、荘園公領制が明確化されたことを踏まえ、院政の政治構造や社会を理解できたか。
2	* 国際的な出来事や文化の動向に着目して、平氏政権における武家政権の形成過程を理解する。			○	○ 院政期後半における武士の影響力の拡大や平氏政権における日宋貿易の展開、地方文化の発展を踏まえ、武家政権の成立過程を把握できたか。
2	<p>イ鎌倉幕府の成立</p> <p>* 本格的な武家政権としてとして成立した鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な政権に成長していく過程を理解する。</p>		○	○	○ 源平の争乱から鎌倉幕府成立までの過程、鎌倉幕府と朝廷による二元的支配の構造、封建制度の成立に着目することができたか。
2	<p>ウ武士の社会</p> <p>* 公武関係に着目して、執権政治の確立にいたるまでの中、鎌倉幕府が公家政権よりも優位に立っていく過程を理解する。</p>		○	○	○ 北条氏が台頭し、承久の乱を機に執権政治を確立していくことを踏まえ、武家政権の形成を見ることができたか。
2	* 武士の生活と地方支配を通じて、土地支配の実質的な支配権を地頭が掌握するようになっていった過程を考察する。		○	○	○ 鎌倉幕府の政治・軍事体制の根幹を成す惣領制の成立、土地支配をめぐる地頭と荘園領主との紛争などに着目しつつ、武家政権の基盤について考察できたか。
2	<p>エ蒙古襲来と幕府の衰退</p> <p>* 蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。</p>			○	○ 文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察できたか。
1	<p>オ鎌倉文化</p> <p>* 鎌倉新仏教の成立により庶民や武士の活動が活発化し、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。</p>		○	○	○ 浄土宗・浄土真宗・日蓮宗・時宗に加え、東アジアとの交流から禅宗が伝わり、鎌倉新仏教が成立したことに着目できたか。 また、武士や庶民を題材にした文学や絵巻物が生まれ、力強く写実的な彫刻が発達について考察できたか。
2	<p>第5章 武家社会の成長 ア室町幕府の成立</p> <p>* 南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて理解する。</p>	7		○	○ 鎌倉幕府の滅亡、建武の新政を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名などに着目して室町幕府の機構の確立について理解できたか。

	<p>イ 幕府の衰退と庶民の台頭</p> <p>2 * 応仁の乱を機に下剋上の風潮が生まれて幕府が動揺する中、庶民の活動が社会秩序の変革の原動力となりえるまで成長し手行ったことを理解する。</p> <p>2 * 諸産業の発達による庶民の台頭、東アジアとの交流などを踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。</p> <p>ウ 室町文化</p> <p>1 * 武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。</p> <p>1 * 庶民文化が萌芽し、戦国大名の保護を踏まえて文化が地方に普及したことを理解する。</p> <p>エ 戦国大名の登場</p> <p>2 * 応仁の乱以降下剋上の風潮を背景にして各地に登場した戦国大名について、各地域の地理的条件と関連づけて理解する。</p> <p>[期末考査] [ノート提出]</p>			○	○	<p>○ 応仁の乱をその後の影響にも着目して考え、惣村の形成や土一揆の発生など力強い庶民の活動を踏まえて、幕府の衰退を考察する。</p> <p>○ 流通経済の進展による農業・商工業の発達、日明貿易の展開、アイヌ・琉球との交流を踏まえて庶民が台頭する姿を考察できたか。</p> <p>○ 南北朝・北山・東山文化を通じて、武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを踏まえ、能・狂言・茶の湯・生花などを例にとり理解できたか。</p> <p>○ 今日までつながる庶民文芸の流行、文化や新仏教の地方普及に着目して、庶民文化を理解できたか。</p> <p>○ 領国統治を強化して富国強兵策を推進した戦国大名、堺や博多に見える都市の発展の原動力となった庶民の力を踏まえて戦国時代の始まりを考察できたか。</p>
	<p>◎ 第3部 近世</p> <p>第6章 幕藩体制の確立</p> <p>ア 織豊政権</p> <p>2 * 大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。</p> <p>2 * 織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義について理解する。</p> <p>イ 桃山文化</p> <p>1 * 新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。</p> <p>* ウ 幕藩体制の成立</p> <p>2 * 江戸幕府の成立による幕藩体制の</p>	9		○	○	<p>○ 鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できたか</p> <p>○ 幕藩体制とのつながりに着目して、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を考察できたか。</p> <p>○ 桃山文化が幅広い国際性を持ちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、秀吉の朝鮮侵略や南蛮文化にも着目して考察できたか。</p> <p>○ 幕藩体制の特質について、幕府と藩・朝廷・寺社との関係、農村・農民</p>





	<p>戦にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。</p> <p>オ近代産業の発展</p> <p>2 * 日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。</p> <p>2 * 近代産業の発展に伴う社会問題・労働問題の発生や、国民生活の向上について考察する。</p>		○	○	○	<p>至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察できたか。</p> <p>○殖産興業政策を基礎に、産業基盤の整備の進行、繊維・軍需産業の発展、重工業の形成などに着目して資本主義の確立過程を総合的に理解できたか。</p> <p>○寄生地主制の進展、ストライキの勃発や足尾鉍毒事件などに見られる社会運動の発生、それに対する大逆事件などの弾圧に着目できたか。</p> <p>また、出版・交通・通信などの面で生活様式が近代化した身近な例を見つけられたか。</p>
	<p>カ近代文化の発達</p> <p>2 * 伝統的な文化のうえに欧米文化を取り入れた国民的な性格を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって理解する。</p>		○	○	○	<p>○国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。</p>
	<p>第10章 近代日本とアジア</p> <p>ア第一次世界大戦と日本</p> <p>2 * 第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。</p> <p>2 * 第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて理解する。</p>	1 2			○	<p>○第一次護憲運動による大正政変以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解し、欧米からアジアに至るまで広い範囲の国際環境の推移に着目し、第一次世界大戦を考察できたか。</p> <p>○大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察できたか。</p>
	<p>ウワシントン体制</p> <p>2 * ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。</p> <p>2 * 民主主義的風潮による社会運動の動向を理解すると共に、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について理解する。</p>		○		○	<p>○ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目できたか。</p> <p>○社会主義運動・労働運動・農民運動・部落解放運動・女性の地位を高める運動など様々な社会運動に目を向け、普選運動・護憲三派内閣の成立・治安維持法の成立などに着目して政党政治を考察できたか。</p>
	<p>エ市民文化</p>					○学問・芸術・出版・マスメディアな



2	<p>* 労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について理解する。</p> <p>[期末考査]〔ノート提出〕</p>					<p>どを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。</p>
	<p>ホ恐慌の時代</p>					
2	<p>* 戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内外の状況について、経済対策はもとより政治・経済の動揺にも着目して理解する。</p>					<p>○戦後恐慌・関東大震災・金融恐慌・金解禁・世界恐慌・昭和恐慌・農業恐慌などを取り上げ、国内の経済対策と経済の動揺について理解できたか。</p>
2	<p>* 社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。</p>					<p>○無産政党的の誕生など社会主義運動が高まる中、軍部が中心となって協調外交から山東出兵などの積極外交へと転換していく過程を考察できたか。</p>
	<p>カ軍部の台頭</p>					
2	<p>* 日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程も踏まえて考察する。</p>					<p>○満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。</p>
2	<p>* 恐慌から脱出し、ナショナリズムが高揚する日本において、二・二六事件以降ますます軍部の影響力が増大していく過程を考察する。</p>					<p>○管理通貨制度への移行、新興財閥の台頭、思想的転向の続出などを踏まえ、二・二六事件以降の大軍拡への過程を考察できたか。</p>
	<p>キ第二次世界大戦</p>					
2	<p>* 日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。</p>	1 2				<p>○中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察することができたか。</p>
2	<p>* 第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。</p>					<p>○連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力体制などを踏まえ、日本がアジアの諸国に多大な損害を与えたことや広島・長崎への原爆投下など日本も空前の戦禍を被ったことに着目できたか。</p>
	<p>第11章 占領下の日本</p>					
	<p>ア占領と改革</p>					
2	<p>* 戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解する。</p>					<p>○労働三法・教育基本法の制定などを取り上げ、五大改革をはじめとするGHQによる諸政策が、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気づかせたか。</p>
2	<p>* 戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。</p>	1				<p>○女性参政権が認められ、政党政治が復活する中、主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の3原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意</p>

						味を、国民生活の状況も踏まえて考察できたか。
	冷戦の開始と講和					
2	* 東アジア情勢の変化を踏まえ、連合 国による占領が終結し、日本が独立 した意義を考える。			○	○	○中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の 勃発に着目して、経済面では経済安定 九原則・政治面では警察予備隊の新設 に着目して、占領政策の転換について 考察できたか。
2	* 連合国による日本の占領が終結し たことと、その後の日米関係の継続 について、様々な国の立場から考察 する。			○	○	○サンフランシスコ平和条約の調印 による日本の独立国としての主権回 復の意義と安全保障をアメリカに依 存する日米安保条約の締結の意味を 理解できたか。
	第12章 高度経済成長の時代	2				
	ア55年体制					
2	* 独立後の日本国内政治について、5 5年体制の成立から安定した保守 政権となるまでの経過を理解する。			○	○	○保守合同による自由民主党の成立 から安定した保守政権の誕生に至る までを、外交・政治・経済を踏まえて 多面的・多角的に考察できたか。
2	* 冷戦構造に雪解けの状況が生まれ る中、日本が国際社会に復帰したこ とについて、日本の国際連合への加 盟、アメリカ・ソ連・中華人民共和 国・大韓民国との関係に着目して、 独立回復後の日本の動きを考察す る。				○	○MSA協定・新安保条約・日ソ共同 宣言・日韓基本条約・LT貿易などを 取り上げ、外交・政治の再編過程を把 握できたか。
	イ経済復興から高度成長へ					
2	* 朝鮮特需による経済復興とその後 の高度経済成長について、経済の国 際化と国内の技術革新などの側面 に着目して考察する。			○		○特需景気の影響、産業構造の高度化 などを踏まえ、開放経済体制のもとで の日本の動きを考察できたか。
2	* 消費革命による社会の変貌と経済 成長をもたらしたひずみである社 会問題について考察する。			○		○消費の拡大による豊かさの享受、核 家族化、交通網の整備などによる都市 化、マスメディアの発達などを取り上 げる一方農村の過疎化や公害問題な どの社会問題にも注目したか。
	第13章 激動する世界と日本	3				
	ア経済大国への道					
2	* 高度成長が終焉し、保守政権が動揺 する中、国際情勢の変化を踏まえて 行った国内の政治対策について考察 する。			○		○ドル＝ショックや石油危機による マイナス成長に対する政府の行財政 改革について、身近な事例を取り上 げ、考察できたか。
2	* 第二次石油危機を乗り越え、経済大 国としての道を歩み始めた日本の 状況を多面的・多角的に考察する。			○		○経済大国への道には、国民の努力に よって築かれた豊かさ、ODAなどの 社会貢献の重要性、貿易摩擦や円高へ の対応などがあったことに着目でき たか。
	イ冷戦終結と日本社会の動揺					
2	* 冷戦体制の終結とそれに関わる国 内の状況について、日本の政治・外 交・経済・生活文化面を踏まえて多			○		○冷戦終結後の東欧革命、55年体制 が崩壊した政治状況、バブル経済から 平成不況へと進んだ経済状況などを

2	<p>面的・多角的にとらえる</p> <p>* 科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。</p> <p>[学年末考査] [ノート提出]</p>	○		<p>取りあげ考察できたか。</p> <p>○原子力に対する安全性、国連平和維持活動への対応、経済不況に対する国内改革など、具体的な例をもとに理解することができたか。</p>
---	---	---	--	---

### 履修上の注意

- ◇ 授業では、板書やプリント等を併用しますので、ノートや綴じることのできるファイルを用意して下さい。
- ◇ 教科書の他、副教材として図説や資料集も使用しますので、忘れずに持ってきて下さい。
- ◇ 通常の系統的学習の他、「歴史の考察」や「主題を設定し追究する学習」などではレポートの提出や発表を行う場合がありますので、自分の視点や考察した考えをまとめて表現できるよう念頭に置いて学習して下さい。

### 評価方法について

- ◇ 平常の授業に取り組む姿勢、定期考査の結果、課題やレポートなどの提出物の状況を総合的に判断し、尚かつシラバスに記載した評価の観点に即して総合的に判断します。
- ◇ 授業への取り組む姿勢は、授業態度、ノート提出、発表の状況などを評価の対象とします。
- ◇ 課題やレポートなどの提出物では、提出期日や分量を守れたか、自分の視点で考察できたか、丁寧に書くことができたか等を主な判断基準とします。